

ベトナムにおける日本前近代史研究

ファム・ホン・フン

はじめに

このテーマを選んだ理由は三つある。一つ目は、ベトナムにおける日本学研究、および日本史研究の歩みをまとめる必要があるためという理由である。それは今日までのベトナムにおける日本学研究、あるいは日本史研究の研究史的な整理、総括がいまだなされていない現状が存在するためである。報告者は、それを課題としたことに新たな挑戦を試みようと考えた。二つ目は、現在、ベトナムにおいて日本語を勉強する傾向が強まり、日本学、日本史、あるいは日本文化などに関する興味・関心が非常に高まっているという背景を受けて、ベトナム国家大学人文社会科学大学ハノイ校の東洋学部日本研究学科における研究・教育の方針を再確認すべきではないかと考えたためである。そのためには、ベトナム社会のなかの日本への関心の高まりに応える大学における学術研究の在り方、およびその両者のバランスを考える必要がある。三つ目は、個人的な問題なのであるが、私の博士課程において挑んだ「御成敗式目」に関する研究を振り返って、博士課程修了後の自らの研究方向を見極めるためにも、今日までのベトナムにおける日本前近代史研究の総括をする必要があると考えたためである。

以上の三つの理由から、今回のシンポジウムのを借りて、下記の四点を中心にベトナムの日本学、および日本史研究の史学史的状況を報告したいと思う。この報告が、日本とベトナム両国における学術交流においていささかでも寄与することができるとすれば望外の喜びである。本報告の構成は下記になる。

- ①ベトナムにおける日本学研究の沿革と研究・教育機関
- ②ベトナムにおける日本史研究の現状
- ③ベトナムにおける日本前近代史研究の代表的な研究者
- ④日本におけるベトナム学研究

キーワード：日本学研究、東洋学、日本史研究、日本前近代史研究

1. ベトナムにおける日本学研究の沿革と研究・教育機関

日本についての関心の高まり、日本学研究の開始は、1905年のドンズー（DongDu、東遊）運動にある。その後、現在まで続く日本学研究の状況は、以下の四つの時期に区分することができる。

1.1. 日本学研究の沿革

第一期 戦前・戦中期（1905 - 1945 年）

ベトナムの近代化のために、日本の明治維新以降の近代化を学ぶ意志が高揚していた時期（日本学研究の開始）

第二期 ベトナム（対フランス戦争、対アメリカ合衆国）戦争期（1946 - 1973 年）

戦争による社会的な混乱のため、多くの学問研究と同様に、日本学研究も衰退してしまっていた時期。

第三期 ベトナムの統一過程期（1973 - 1993 年）

日本学研究が衰退より復興するが、ベトナム戦争を経てベトナム全土が統一される過程であったために、日本学研究は、いまだ発展する段階には至っていない時期。いわば衰退期と再勃興期の間の、過度的な時期とも位置付けられよう。

第四期 ベトナムにおける政治・経済改革（刷新＜ドイモイ＞）期（1993 年—現在）

多くの分野の研究が勃興するなかで、日本学研究への関心が高まり、その発展期を迎えている時期。

1.2. ベトナムにおける日本学研究の教育機関・研究機関

日本学研究を専門分野として継続的に研究を行なっているところは、下記の五機関である。

- ① ベトナム国家大学 人文社会科学大学 ハノイ校（旧名ハノイ大学）
歴史学部と東洋学部日本研究学科が設置されている。
- ② ベトナム国家大学 人文社会科学大学 ホーチミン市校
歴史学部と日本学部が設置されている。
- ③ ハノイ師範大学 歴史学部
- ④ フェ大学 外国語大学
- ⑤ ベトナム社会科学院 東北アジア研究院

2. ベトナムにおける日本史研究の現状

2.1. 博士論文からみる日本史研究

1990 年代から日本史研究の発展がみられる。しかし博士論文の数もまだ少ないのが現状である。

2.2. 日本史研究者から見る日本史研究

3. ベトナムにおける日本前近代史研究の代表的な研究者

3.1. 国内

グエン・バン・キム教授 日本近世史 鎖国

ファン・ハイ・リン准教授 日本古代・中世史 荘園史、生活文化史

若手研究者 ファム・レー・ファイ 研究生 日本古代史 中国唐朝と比較史

3.2. 海外

ビン・シン教授 思想・歴史・文学史

グエン・ナム・チャン 研究者 文学史

4. 日本におけるベトナム学研究

4.1. Frédéric Roustan の日本におけるベトナム学研究

東洋学、東洋史の中のベトナム学、ベトナム史研究

日本におけるベトナム学、ベトナム史の代表的研究者の紹介

4.2. 日本学研究的課題

研究と教育の関係 生徒調査

専門性、世代間ギャップ、機関の連携など

結論